

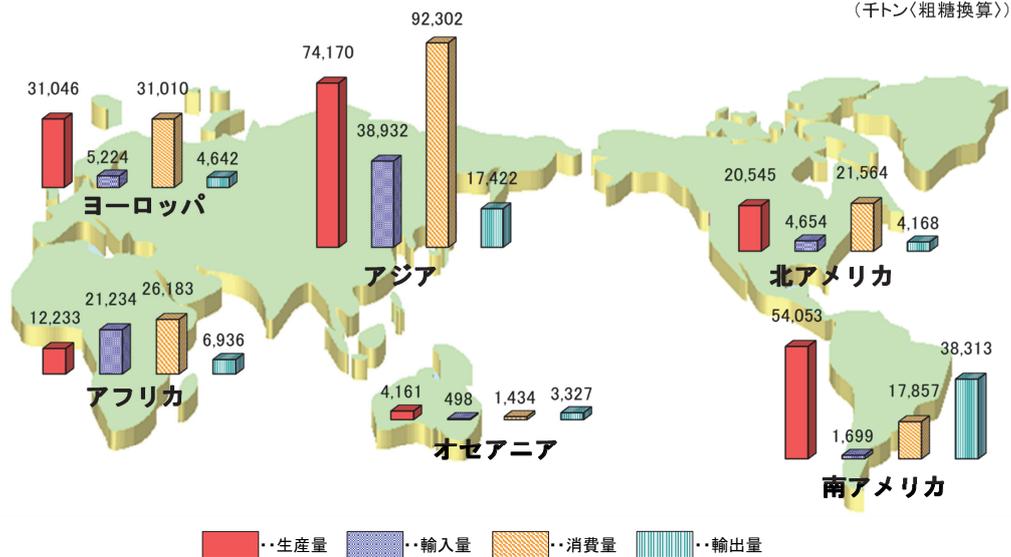


## 砂糖の国際需給

調査情報部

### 1 世界の砂糖需給（2025年12月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別砂糖需給（2025/26年度予測値）



資料：英国の民間調査会社GlobalData UK Ltd. 「Quarterly Statistical Update, December 2025」を基に農畜産業振興機構作成  
 注1：年度は、国際砂糖年度（10月～翌9月）。  
 注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表 世界の砂糖需給の推移

（単位：千トン〈粗糖換算〉、%）

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1995/96	51,697	122,196	34,022	116,280	36,928	54,707	47.0
2000/01	70,442	131,428	38,492	130,890	41,455	68,017	52.0
2005/06	65,335	151,410	47,604	150,147	50,394	63,808	42.5
2010/11	60,007	167,303	54,416	165,435	58,614	57,676	34.9
2015/16	82,280	175,159	69,017	179,289	69,498	77,669	43.3
2020/21	89,141	181,966	67,399	185,968	68,101	84,436	45.4
2021/22	84,436	186,381	69,876	189,210	71,221	80,262	42.4
2022/23	80,262	190,661	71,244	190,748	71,418	80,001	41.9
2023/24	80,001	195,862	76,505	190,890	76,921	84,556	44.3
2024/25	84,556	189,792	73,009	190,398	73,908	83,052	43.6
2025/26 (2025年12月予測)	83,052	196,207	72,241	190,350	74,809	86,340	45.4

資料：GlobalData UK Ltd. 「Quarterly Statistical Update, December 2025」  
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。  
 注2：2023/24年度および2024/25年度の数値は推定値、2025/26年度の数値は予測値。  
 注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。  
 注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」および「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの更新となっていますので、次回は2026年4月号の掲載となります。直近の内容は2026年1月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：[https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07\\_003457.html](https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_003457.html)

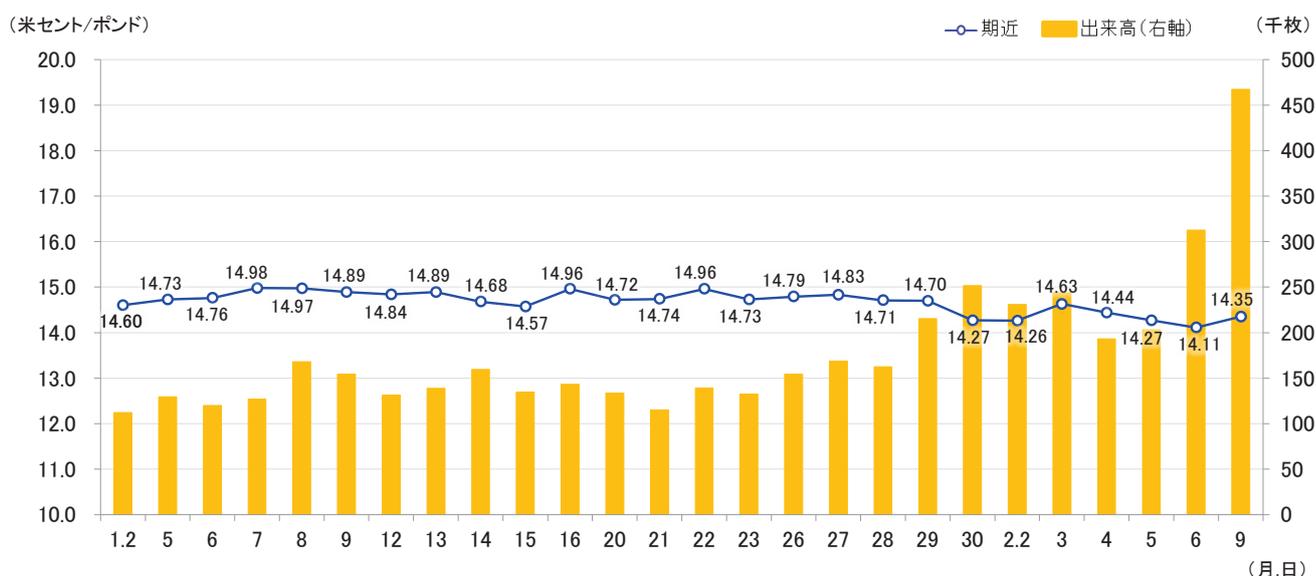
「主要国の砂糖需給」：[https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07\\_003458.html](https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_003458.html)

## 2 国際価格の動向

### ニューヨーク粗糖先物相場の動き（1/2～2/9）

～ブラジル産砂糖の増産と世界的な砂糖余剰見通しにより14セント台が続く～

図 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所  
注：期近3月限の値。

2026年1月のニューヨーク粗糖先物相場（3月<sup>がつ</sup>限）の推移を見ると、2日はインド産の砂糖増産見通しにより1ポンド当たり14.60セント（注1）と前取引日から下落した。5日以降はリアル高（注2）などから上昇傾向となり、7日は同14.98セントとした。8日以降はドル高やブラジル産砂糖の増産などで下落傾向となり、15日は同14.57セントをつけた。16日は米国の連休前に価格が上昇したものの、20日はインドおよびブラジル産砂糖の増産が価格を押し下げた。21日以降はリアル高により上昇し、22日は同14.96セントをつけた。23日以降は、リアル高と世界的な砂糖余剰見通しにより価格が上下したものの、30日は同14.27セントと下落した。

2月に入ると、2日は引き続き世界的な砂糖余剰見通しにより同14.26セントと小幅な下落となった。3日はドル安により一時的に上昇したが、4日以降は世界的な砂糖余剰見通しの圧力が続き、6日は同14.11セントと下落した。9日はドル安により上昇し、同14.35セントとなった。

（注1）1ポンドは約453.6グラム、1米セントは1米ドルの100分の1。

（注2）粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してリアルが上昇すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が弱まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が低下すると、需給のひっ迫につながることから、価格を押し上げる方向に作用する。

### 3 世界の砂糖需給に影響する各国の動向（2026年2月時点予測）

#### ブラジル

##### 2025/26年度（4月～翌3月）の見通し

###### 【サトウキビ】

収穫面積：908万ha（前年度比2.6%増）  
生産量：6億6600万トン（同1.9%減）

###### 【砂糖（甘しや糖）】

生産量：4681万トン（同0.8%減）  
輸出量：3628万トン（同1.2%減）

#### 2025/26年度の砂糖生産量および輸出量はわずかな減少見込み

2025/26年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、908万ヘクタール（前年度比2.6%増）とわずかな増加が見込まれている（表）。しかし、サトウキビ生産量は、前年度の火災や干ばつ、25年6月と7月に中南部で局所的に発生した霜害などの影響により、6億6600万トン（同1.9%減）とわずかな減少が見込まれている。

砂糖生産量は、世界の砂糖相場下落やエタノール30%混合（E30）義務付けによるエタノール需要の増加などを背景に1月以降、サトウキビの砂糖への

の仕向け割合が低下したことなどから、4681万トン（同0.8%減）とわずかな減少が見込まれている。砂糖輸出量は、3628万トン（同1.2%減）とわずかな減少が見込まれているが、引き続き国際市場でのブラジル産砂糖に対する堅調な需要が見込まれている。

また、現地報道では、同国の25年のエタノール輸出量は16億1200万リットル（前年比14.6%減）となり、過去5年平均より約20%減少し、17年以来最低の水準となった。一方、エタノール輸入量は、3億1900万リットル（同66.2%増）と大幅な増加となった。

表 ブラジルの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

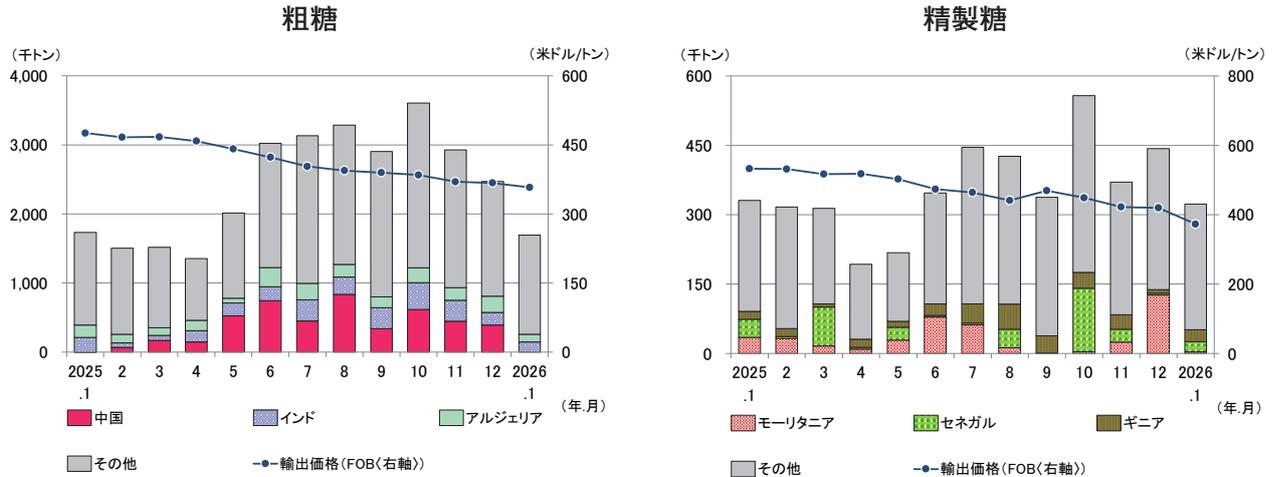
年度	2022/23	2023/24	2024/25	2025/26 (1月予測)	2025/26 (2月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	8,440	8,408	8,844	9,054	9,075	2.6
サトウキビ生産量	606,676	713,134	678,676	661,000	666,000	▲ 1.9
砂糖	生産量	39,700	49,320	47,190	46,550	▲ 0.8
	輸入量	2	5	4	5	8.3
	消費量	10,924	10,965	10,733	10,551	▲ 1.9
	輸出量	28,888	37,393	36,718	35,995	▲ 1.2
	期末在庫量	2,233	3,200	2,943	3,476	2,944
期末在庫率	5.6	6.6	6.2	7.5	6.3	0.1 ポイント増

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2026」

注1：2023/24年度および2024/25年度の数値は推定値、2025/26年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」  
 注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。  
 注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。

## インド

### 2025/26年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：526万ha（前年度比0.3%増）  
 生産量：4億2680万トン（同9.5%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3251万トン（同15.6%増）  
 輸出量：380万トン（同6.6%減）

### 2025/26年度の砂糖生産量はかなり大きな増加見込み

2025/26年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、526万ヘクタール（前年度比0.3%増）と前年度並みが見込まれている（表）。サトウキビ生産量は、1）25年のモンスーンが収量向上に寄与したこと、2）マハラシュトラ州など一部地域で発生した洪水の影響が長期的なものではないとの推測から、4億2680万トン（同9.5%増）とかなりの程度増加が見込まれている。

砂糖生産量は、主要生産州であるマハラシュトラ州、ウツタル・プラデーシュ州およびカルナータカ州でのサトウキビの増産と歩留まり（糖回収率）の上昇により、3251万トン（同15.6%増）とかなり

大きな増加が見込まれている。一方、砂糖輸出量は、世界の砂糖相場下落により、380万トン（同6.6%減）とかなりの程度減少が見込まれている。

また、現地報道では、インド砂糖・バイオエネルギー製造業者協会（ISMA）が第2世代バイオエタノール<sup>(注)</sup>および持続可能な航空燃料（SAF）を含むバイオ燃料に対する予算支援やエタノール20%混合（E20）より高い混合率（E27）などの実現に向けたロードマップの作成を政府に求めているとしている。

(注) バガスなど非可食用バイオマスを原料とするバイオエタノール。

表 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

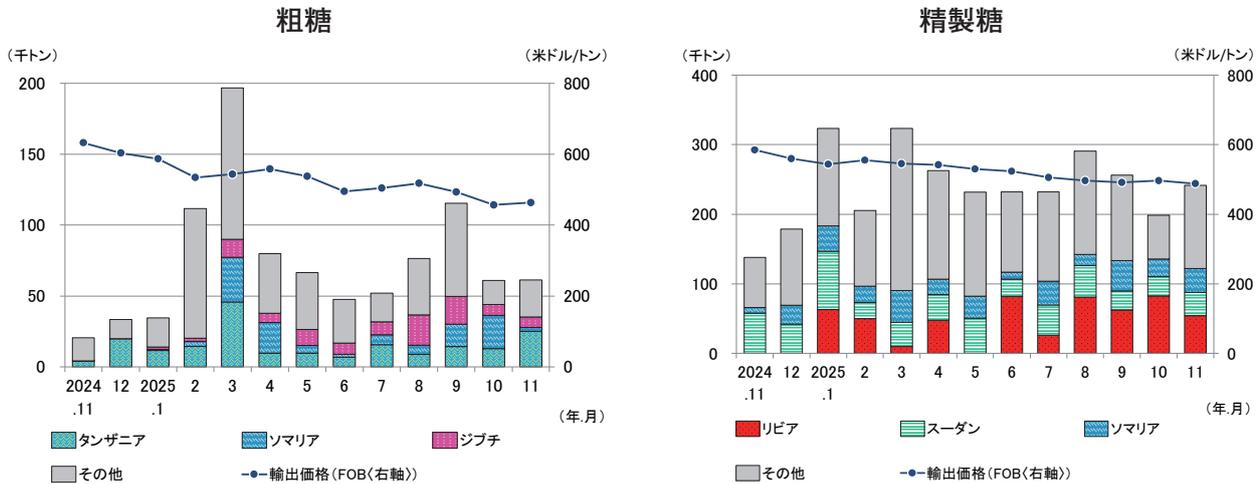
年度	2022/23	2023/24	2024/25	2025/26 (1月予測)	2025/26 (2月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	5,441	5,544	5,243	5,259	5,259	0.3	
サトウキビ生産量	455,898	443,707	389,847	434,807	426,801	9.5	
砂糖	生産量	35,389	34,677	28,132	33,394	32,510	15.6
	輸入量	1,687	3,128	2,802	3,163	3,163	12.9
	消費量	30,078	31,093	30,510	30,780	30,780	0.9
	輸出量	8,646	4,384	4,068	3,528	3,798	▲ 6.6
	期末在庫量	6,286	8,614	4,970	7,219	6,064	22.0
	期末在庫率	16.2	24.3	14.4	21.0	17.5	3.2ポイント増

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2026」

注1：2023/24年度および2024/25年度の数値は推定値、2025/26年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。

## 中国

### 2025/26年度(10月～翌9月)の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：121万ha(前年度比2.1%増)

生産量：8379万トン(同13.9%増)

#### 【てん菜】

収穫面積：23万ha(同8.3%増)

生産量：1266万トン(同5.9%減)

#### 【砂糖(甘しゅ糖およびてん菜糖)】

生産量：1260万トン(同4.4%増)

輸入量：539万トン(同16.8%減)

### 2025/26年度の砂糖輸入量は大幅な減少見込み

2025/26年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は、競合作物よりも収益性が高いことから生産者が作付けを増加させたことで、121万ヘクタ

ール(前年度比2.1%増)とわずかな増加が見込まれている(表)。サトウキビ生産量は、主産地である広西チワン族自治区や雲南省での収穫開始が遅れたが、サトウキビの生育は良好であるため、8379万トン(同13.9%増)とかなり大きな増加が見込

まれている。

てん菜収穫面積は、競合作物の市場価格や需要の低下により、生産者が作付けを増加させたことで23万ヘクタール（同8.3%増）とかなりの程度増加が見込まれている。一方、てん菜生産量は、単収の減少により1266万トン（同5.9%減）とやや減少が見込まれている。

砂糖生産量は、てん菜の減産をサトウキビの増産が補完することで1260万トン（同4.4%増）とやや増加が見込まれている。砂糖輸入量は、引き続き国内の需給ギャップを埋めるために一定の輸入が予想されるが、国内生産の改善見通しから、539万トン（同16.8%減）と大幅な減少が見込まれている。

表 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

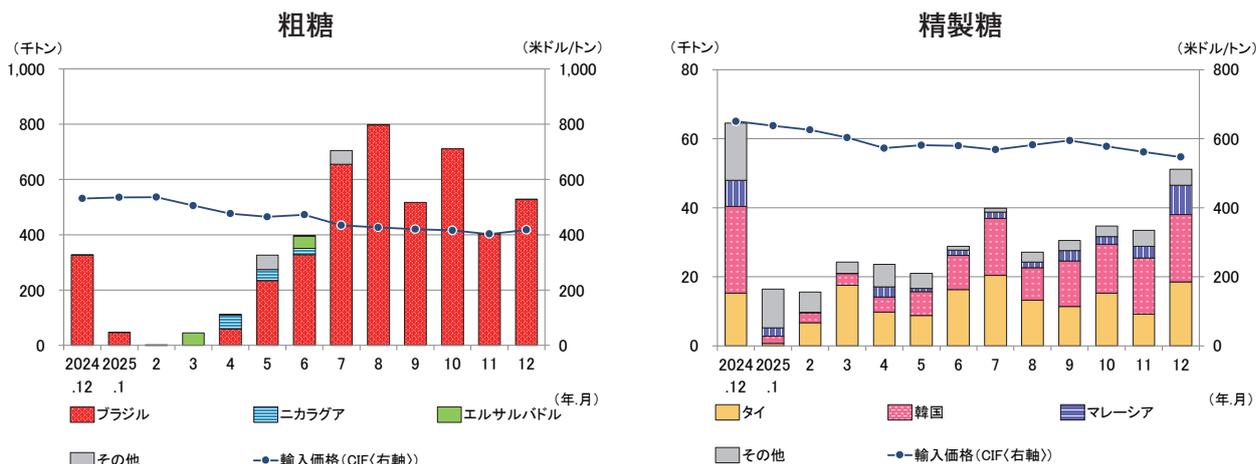
年度	2022/23	2023/24	2024/25	2025/26 (1月予測)	2025/26 (2月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,102	1,095	1,180	1,205	1,205	2.1	
サトウキビ生産量	62,595	73,132	73,537	80,137	83,793	13.9	
てん菜収穫面積	182	167	216	234	234	8.3	
てん菜生産量	8,719	9,377	13,460	12,662	12,662	▲ 5.9	
砂糖	生産量	9,699	10,773	12,067	12,345	12,602	4.4
	輸入量	5,851	7,402	6,470	5,418	5,386	▲ 16.8
	消費量	16,578	16,740	16,924	16,956	16,956	0.2
	輸出量	201	179	170	164	164	▲ 3.4
	期末在庫量	14,193	15,449	16,893	17,536	17,760	5.1
	期末在庫率	84.6	91.3	98.8	102.4	103.7	4.9ポイント増

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2026」

注1：2023/24年度および2024/25年度の数値は推定値、2025/26年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸入量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。

注3：2025年2月の粗糖輸入量は、千トン未満。

# E U

## 2025/26年度（10月～翌9月）の見通し

### 【てん菜】

収穫面積：140万ha（前年度比10.5%減）

生産量：1億1316万トン（同2.9%減）

### 【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1734万トン（同0.2%増）

輸入量：168万トン（同11.5%増）

## 2025/26年度の砂糖輸入量はかなり大きな増 加見込み

2025/26年度（10月～翌9月）のてん菜収穫面積は、生産量上位国であるフランス、ドイツ、ポーランドを中心に各国で減少が見込まれることから、140万ヘクタール（前年度比10.5%減）とかなりの程度減少が見込まれている（表）。てん菜生産量は、フランスでは単収の向上、ドイツでは糖度の改善をそれぞれ見込んでいるものの、作付面積の減少により、1億1316万トン（同2.9%減）とわずかな減少

が見込まれている。

砂糖生産量は、1734万トン（同0.2%増）と前年度並みが見込まれているが、フランスやオランダなどでの収量予測が上方修正されたことで、今月予測は24/25年度の生産量を上回った。砂糖輸入量は、EU域内の砂糖価格が下落する中、依然として無税枠を利用した砂糖輸入が可能な状況にあり、精製糖企業による相当量の輸入契約がすでに締結済みであるとされることなどから、168万トン（同11.5%増）とかなり大きな増加が見込まれている。

表 EUの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

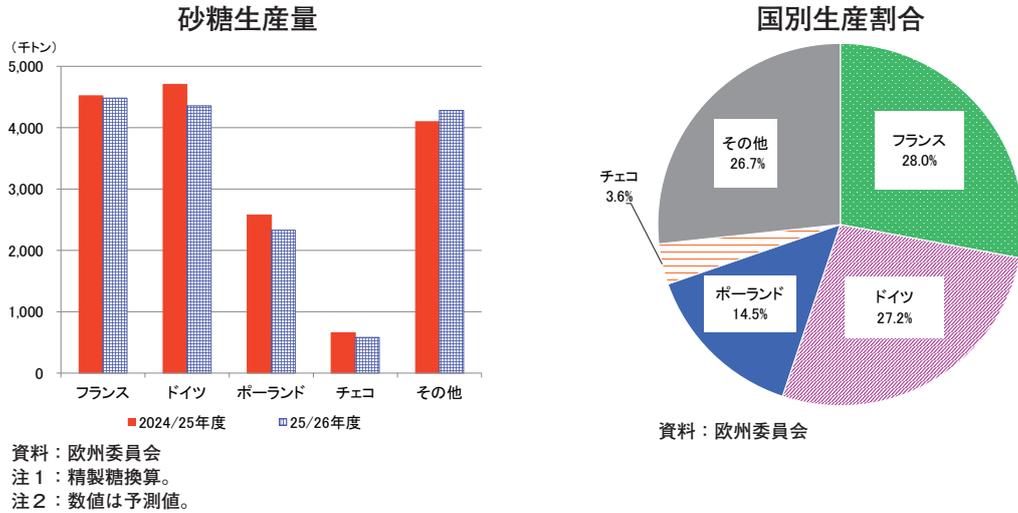
年度	2022/23	2023/24	2024/25	2025/26 (1月予測)	2025/26 (2月予測)	前年度比 (増減率)	
てん菜収穫面積	1,398	1,447	1,569	1,403	1,403	▲ 10.5	
てん菜生産量	99,760	109,898	116,498	114,155	113,159	▲ 2.9	
砂糖	生産量	15,480	16,313	17,308	17,275	17,337	0.2
	輸入量	3,287	2,199	1,503	1,827	1,675	11.5
	消費量	17,271	16,375	16,590	16,512	16,590	0.0
	輸出量	899	2,087	2,090	2,127	2,018	▲ 3.4
	期末在庫量	1,909	1,959	2,090	2,630	2,494	19.3
	期末在庫率	10.5	10.6	11.2	14.1	13.4	2.2ポイント増

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2026」

注1：2023/24年度および2024/25年度の数値は推定値、2025/26年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある

(参考) EUの砂糖生産量および国別の生産割合の見通し (2025/26年度) (2025年12月時点)



## 4 日本の主要輸入先の動向 (2026年2月時点予測)

近年、日本の粗糖(甘しや糖・分みつ糖<HSコード1701.14-110>および甘しや糖・その他<同1701.14-200>の合計)の主要輸入先は、豪州およびタイである。2025年の主要輸入先の割合を見ると、豪州が90.7%(前年比0.5ポイント増)、タイが9.3%(同0.4ポイント減)と、両国でほぼ全量を占めている(財務省「貿易統計」)。

### 豪州

#### 2025/26年度(4月~翌3月)の見通し

##### 【サトウキビ】

収穫面積：34万ha(前年度比4.3%増)

生産量：2887万トン(同0.2%増)

##### 【砂糖(甘しや糖)】

生産量：391万トン(同0.2%増)

輸出量：294万トン(同1.5%増)

### 2025/26年度の砂糖輸出量はわずかな増加見込み

2025/26年度(4月~翌3月)のサトウキビ収穫面積は、34万ヘクタール(前年度比4.3%増)とやや増加が見込まれている(表)。サトウキビ生産量は、23/24年度から継続して3000万トンを下回ることとなり、2887万トン(同0.2%増)と前年度並みが見込まれている。こうした中、豪州砂糖製造者協会(ASM)は、サトウキビ価格の下落で多くの製糖工場が赤字での経営を強いられており、砂

糖業界にとって厳しい年となった旨の声明を発表した。26/27年度の作付けは、25/26年度の収穫作業が例年と比較して早期に終了したことで早期に開始され、初期の作況は好調と見られている。

25/26年度の砂糖生産量は、391万トン(同0.2%増)とサトウキビ生産量と同様に前年度並みが見込まれている。砂糖輸出量は、アジア地域向けを中心に引き続き多くの需要があることから、294万トン(同1.5%増)とわずかな増加が見込まれている。

表 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

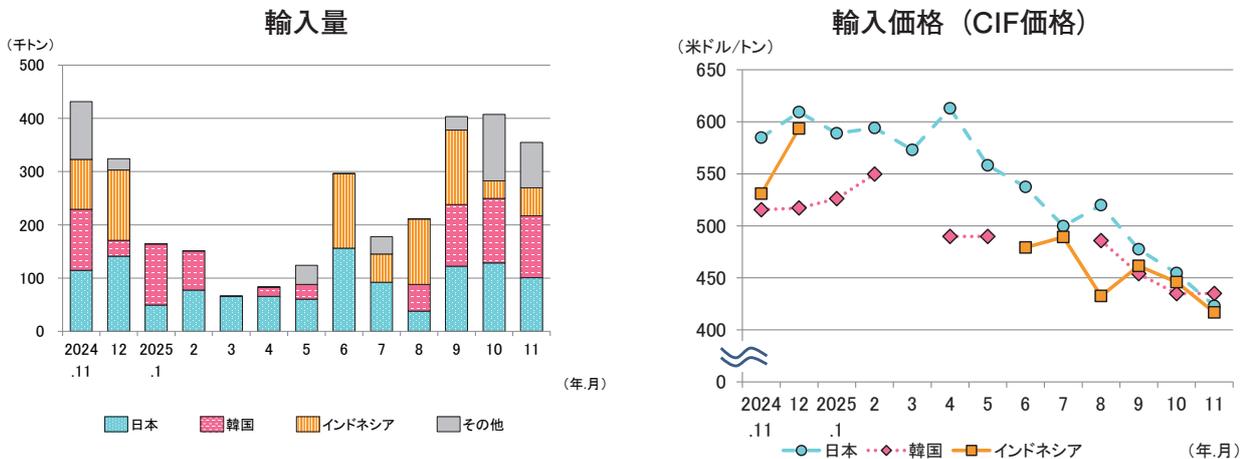
年度	2022/23	2023/24	2024/25	2025/26 (1月予測)	2025/26 2月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	331	341	324	338	338	4.3
サトウキビ生産量	32,593	29,855	28,801	28,873	28,873	0.2
砂糖	生産量	4,298	4,128	3,905	3,914	0.2
	輸入量	8	10	15	12	▲17.5
	消費量	996	997	999	1,001	0.2
	輸出量	3,292	3,700	2,896	2,925	1.5
	期末在庫量	987	427	452	467	▲2.9
	期末在庫率	23.0	9.1	11.6	11.9	0.5ポイント減

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2026」

注1：2023/24年度および2024/25年度の数値は推定値、2025/26年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 主要国の豪州産砂糖(粗糖)の輸入量および輸入価格の推移



資料：輸入量はGlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2026」、輸入価格は「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)の数値。

注2：直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域とその他の輸入量を表示。

その他は上位3カ国・地域を除いた国・地域の合計。

ただし、GlobalData UK Ltd.の資料に掲載されている国・地域となる。

注3：豪州の輸出に関する月別の統計情報は公表されていないため、主要輸入国の月別の輸入に関する統計情報に基づき作成。

注4：韓国の25年3月、6月、7月の輸入量は実績なし。

注5：インドネシアの25年1月、2月、3月、4月、5月の輸入量は実績なし。

## タイ

### 2025/26年度(10月～翌9月)の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：157万ha(前年度比2.2%増)

生産量：9530万トン(同3.5%増)

#### 【砂糖(甘しや糖)】

生産量：1119万トン(同5.8%増)

輸出量：888万トン(同30.6%増)

### 2025/26年度の砂糖輸出量は大幅な増加見込み

2025/26年度(10月～翌9月)のサトウキビ収穫面積は、157万ヘクタール(前年度比2.2%増)とわずかな増加が見込まれている(表)。サトウキ

ビ生産量は、収穫前の乾燥した天候が収量に有利に働くことで、9530万トン(同3.5%増)とやや増加が見込まれている。しかし、25/26年度のサトウキビの最低取引価格の期首価格が大幅に引き下げられ、キャッサバ価格が安定している現状を踏まえる

と、キャッサバの方がサトウキビより収益性が高く、キャッサバへの切り替えが進むという見方もある。

砂糖生産量は、サトウキビの増産により、1119万トン（同5.8%増）とやや増加が見込まれている。しかし、年末年始にかけての製糖工場における圧搾作業の中止やカンボジアとの国境閉鎖に伴う労働力

確保の問題などで収穫および圧搾作業に遅延が発生していることから、累計での生産量は前年度を下回って推移している。砂糖輸出量は、ブラジル産の輸出量減少が見込まれている中、砂糖の増産を背景に888万トン（同30.6%増）と大幅な増加が見込まれている。

表 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

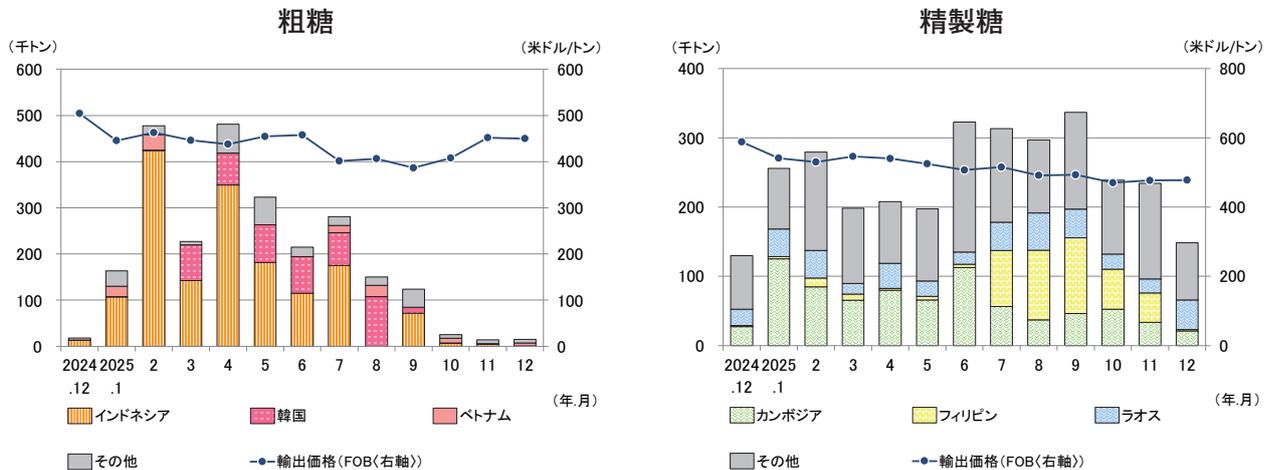
年度	2022/23	2023/24	2024/25	2025/26 (1月予測)	2025/26 (2月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,514	1,475	1,541	1,574	1,574	2.2	
サトウキビ生産量	93,888	82,167	92,043	95,300	95,300	3.5	
砂糖	生産量	11,688	9,315	10,576	11,181	11,188	5.8
	輸入量	282	249	373	40	40	▲ 89.3
	消費量	3,348	3,186	3,220	3,238	3,238	0.5
	輸出量	8,002	5,888	6,798	8,876	8,876	30.6
	期末在庫量	2,591	3,080	4,012	3,109	3,126	▲ 22.1
	期末在庫率	22.8	33.9	40.0	25.7	25.8	14.2ポイント減

資料：GlobalData UK Ltd. [Monthly Sugar Information in Major Countries, February 2026]

注1：2023/24年度および2024/25年度の数値は推定値、2025/26年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。